



日本ロボットビジネス体系講座 2014-2015

JAPAN ROBOT BUSINESS SYSTEM LECTURE 2014-2015



Robotic Increase Center

ロボットは一筋縄ではいかない、
ましてそれをビジネスにするには。

日本のロボットビジネスを基礎から実践、今後の展望まで、総合的かつ体系的に解説。
国内外、分野別、企画から開発、実証実験、商品化に至る全過程を客観的なデータや実体験に基づき具体例を交えて、わかりやすく検証。
細かな専門的技術論ではなく、社会環境、ユーザーニーズ、生活様式など、時代や人々の意識の大きな流れの中でロボットビジネスをとらえる。

開催日(各日 13:30~19:00) 会場:川崎市産業振興会館
2014年10月25日(土) / 11月15日(土) / 12月13日(土)
2015年 1月17日(土) / 2月14日(土) / 3月7日(土)

主催: 認定NPO法人ロボティック普及促進センター 後援: 公益財団法人川崎市産業振興財団、かわさき・神奈川ロボットビジネス協議会

ワレラの時代

Le Grand
☆
robotique
comité

開催日

2014年

10月25日(土)

11月15日(土)

12月13日(土)

2015年

1月17日(土)

2月14日(土)

3月7日(土)

(各日 13:30~19:00)

※講座内容は同じですので、ご都合の良い講座日をお選びください。

会場：川崎市産業振興会館



JR川崎駅から徒歩8分、京浜急行川崎駅から徒歩7分

I 基礎編

1. 我々は今、時代のどこにいるのか、どこへ向かおうとしているのか

- ・ロボットとロボティック
- ・グラン☆ロボティック
～ヒトと機械と社会との劇的關係性～
- ・ロボティック・ライフスタイル[®]・コミュニケーション
～ロボットと暮らす上質で新しい生活～
- ・ロボティック・ワークスタイル・オペレーション
～ロボットとの協働により変容する職場・雇用環境～

2. 国や行政のロボット関連施策

3. 分野別最新動向

(生活支援、作業支援、点検・メンテナンス、介護・見守り、医療、農業、モビリティ、無人機、極限環境など)

4. 海外の最新動向

5. 実証実験

- ・実証実験が本来目指すべきこと

6. 安全性の確保

- ・本質安全、機能安全
- ・損害保険

主催：認定NPO法人ロボティック普及促進センター 後援：公益財団法人川崎市産業振興財団、かわさき・神奈川ロボットビジネス協議会

日本ロボットビジネス体系講座 2014-2015

JAPAN ROBOT BUSINESS SYSTEM LECTURE 2014-2015

対象者：ロボットビジネスに興味がある人、ロボットビジネスをはじめたい人、ロボットビジネスに取り組んでいる人

※企業、自治体、学校、団体機関などで社員や担当者、会員、学生向けに本講座をご希望の場合は、出張講座を行います。詳細についてはお問い合わせください。ご相談に応じます。 otoiawase@npo-ric.org

ワレラの時代



講座修了者は、これからのヒトと機械と社会との劇的關係性について継続的に討議する『ワレラの時代』委員会 (Le Grand☆robotique comité) に入会する資格を有します。

II 実践編

1. 現状を知る

- 死屍累々の失敗事例
～いまだ繰り返される、作ってから売り先を考える～
- ユーザーはかく語りき
～ロボット開発者、研究者に引っ張られすぎない～
- ロボット報道の罪と罰
～絵になるわかりやすさ 5年後に実用化します～
- アメリカやドイツとの大きな開き
～規制緩和は本当に必要か～
- コラボで浪費される時間
～秘密保持契約に半年～
- 実証実験の甘い罠
～評価は誰が決めるのか～
- モノづくりだけでいいのですか？
～モジュール化、端末としての行方～
- やめるそれぞれの事情
～ロボットだからとすべて完璧に行う必要はない～

2. なにから手をつけていけばいいのか

- 大手企業、ロボットベンチャーのビジネスモデルをしてみる
(ケーススタディ)
- 成功事例はあるのか
- 企画から開発、商品化までにやらなくてははいけないこと
- 立ち足はだかる壁をどう乗り越えていくか
- 資金調達方法
～補助金 麻薬に似た副作用～
- 神奈川県の実証実験支援事業で実施した運営方法、安全対策
- ロボットや自律走行車などの先進技術の保険
～ロボット保険サービス～
- それでもリスクは残る
～リスクを共有する社会の醸成～

3. 株と投資とロボット

III 展望編

- これからの 10 年
～フレラの時代 グラン☆ロボティックへ～
- ヒトと機械と社会との関係性を考える
～ロボティック・ドラマ 第一幕 [Sex Bargain Robot]
英字幕付き映像編集版より～

申し込み：

下記メールアドレスに必要事項を記載の上、お申込みください。

seminasanka@npo-ric.org

件名：日本ロボットビジネス体系講座 参加申し込み
必要事項：参加日、氏名、所属先、年齢、所在地、メールアドレス、
電話番号、振込予定日

料金（税込）：

2万5千円（女性と20代の方は1万5千円）

但し、7日前までに申し込みの場合は
2万円（女性と20代の方は1万円）

ゆうちょ銀行 店番 058 普通 4507478
ロボティックフキュウソクシンセンター
※参加日の3日前までにお振込ください。

各日とも講座内容は同じですので、ご都合の良い講座日をお選び
ください。また参加予定の方がご都合悪い場合は、代理の方の出
席も可能です。
講座終了後、個別相談にも応じます。

お問い合わせ・ご相談先（まずはメールでお問い合わせください）
otoiawase@npo-ric.org

※ロボットの最新動向を反映する講座にするため、講座内容が一部変更される場合があります。



Robotic Increase Center

認定NPO法人ロボティック普及促進センター(RIC)について

ロボティック普及促進センターは、かわさき・神奈川ロボットビジネス協議会の会員有志などが中心になって設立。

現在、同協議会の事務局業務をはじめ、企業や研究機関、自治体などと連携して、ロボット関連技術の普及促進に関する事業を行っている。

2011年 4月 設立 神奈川県認証

6月 かわさき・神奈川ロボットビジネス協議会 事務局業務開始

2012年 11月 NPO法人として日本初の損害保険代理業務（名称：ロボット保険サービス）を開始。ロボットや自律走行車（ロボットカー）などの先進技術に係る
保険やコンサルティングを行う。

2013年 12月 神奈川県指定 NPO 法人

2014年 8月 神奈川県認定 NPO 法人※

ホームページ <http://npo-ric.seesaa.net/>

メールアドレス otoiawase@npo-ric.org

※認定NPO法人とは、「より客観的な基準において、高い公益性をもっている」と所管官庁（都道府県の知事、又は指定都市の長）により認定された法人。個人が認定NPO法人へ
寄付をした場合、「寄付金控除」制度が適用され、確定申告をすることで税金の還付（最大50%）を受けることができ、法人の場合は損金に算入できる金額が拡大される。また、相続
人が相続財産を寄付した場合は相続税が非課税になるなど、より高い税制優遇が適用される。

ロボットは一筋縄ではいかない、ましてそれをビジネスにするには。

ロボットをどうすれば実用化でき、ビジネスとして成り立つことができるのか。ロボットをビジネスにしようとするほど、様々な課題が生まれ、幾多もの壁にぶつかる。そんな一筋縄ではいかないロボットのビジネス化について、いろいろ迷い、惑わされ、さんざんに叩かれながら、多くの実務経験を積んできた。

ある時それは表現活動(SNS、演劇、映像、講演)であり、あるいは現場へのフィールド調査であり、関係者やユーザーへのインタビュー取材であった。また、ある時それはロボットベンチャーへの開発支援であり、ロボット実証実験での現実的対応であり、保険を含む安全性の確保に關する手段・方法であった。

本講座では、そうした実務を通じて考え、経験し、得てきた様々な知見をフル動員して、ロボットビジネスをとりまく国内外の最新動向から、他では絶対に聞けない「本音の話」まで、日本のロボットビジネスの基礎から実践、そして展望までを総合的かつ体系的に解説する。

ロボットビジネスに関心はあるのだけど何からはじめていいかわからない、これからロボットビジネスを新規事業としてはじめたい、今までロボットビジネスに携わってきたけどあらためて一から学びたい、そんなロボットビジネスに関わるすべての方々には十分満足してもらえるよう、真に「骨太のロボットビジネス体系」をめざすと共に、次のステップにつながる橋渡しを試みたい。そして、参加した皆さんとこれからの10年に訪れるだろう、ヒトと機械と社会との劇的関係性＝グラン☆ロボティックや、ロボットと暮らす上質で新しい生活＝ロボティック・ライフスタイル®・コミュニケーション、ロボットとの協働により変容する職場・雇用環境＝ロボティック・ワークスタイル・オペレーション、が実現する『ワレラの時代』について考えていきたい。

小林賢一



ロボットと暮らす上質で新しい生活＝ロボティック・ライフスタイル®・コミュニケーション・サイト「ロボカーサ・ドットコム」(2005年～)



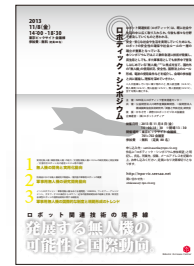
ロボットを軸に、ヒトと機械と社会との関係性を考える「ロボティック・ライフスタイル®Journal」(2005年～)



夫婦とロボットが繰り広げる大人のコメディ。ロボティック・ドラマ 第一幕「Sex Bargain Robot」(2010年、2012年)



ロボティック・ライフスタイル®・ティーチン「男と女 de ロボット」(2012年)



ロボティック・シンポジウム「ロボット関連技術の境界線～発展する無人機の可能性と国際動向～」(2013年)



講師：小林賢一

認定 NPO 法人ロボティック普及促進センター 理事長
株式会社ロボットメディア 代表取締役

略歴：

2005年 ロボットの調査、プロモーション支援を専門に行う株式会社ロボットメディアを設立。
これまで介護、医療、生活支援、住宅、宇宙、レスキュー、パーソナルモビリティ、自動掃除機、パワーアシスト機器、テレプレゼンス、無人機などのロボット関連技術に関する80を超える調査、300人を超えるロボットキーパーソンへの取材を行う。
また、「住まい」と「モビリティ」を中心に、ロボットと暮らす上質で新しい生活＝ロボティック・ライフスタイル®・コミュニケーションを紹介する「ロボカーサ・ドットコム」(※1)及び、ヒトと機械と社会との関係性を考える「ロボティック・ライフスタイル Journal」(※2)を運営。
2007年に調査・執筆した「高齢者・障害者の次世代自律支援機器の市場性と介護施設のニーズ分析」が、神奈川県介護・医療分野ロボット普及推進事業(2010年)の基礎資料となり、その後の介護ロボットの普及・実用化につながっていく。
2010年 ある家族とロボットとの20年にわたる物語、ロボティック・ドラマ 第一幕「Sex Bargain Robot」を作・演出(2012年に英字幕付き映像編集版を製作し、上映)
2011年 ロボット関連技術の一層の普及を目指す(N)ロボティック普及促進センターを設立。同年、かわさき・神奈川県ロボットビジネス協議会事務局業務を開始。
2011年から3年間、神奈川県実証実験支援事業の実証実験実行委員会委員長を務め、実証実験の運営手法、安全性の確保など、ロボットが普及していくために必要なノウハウについて、総合的に取りまとめる。
2012年 NPO法人として日本で初めての損害保険代理業務(名称：ロボット保険サービス)を開始し、ロボットの実証実験や自律走行車(ロボットカー)のデモ走行などの先進技術の保険や安全に係るコンサルティングを行う。
同年、神奈川県の「県内ロボット関連製品開発・活用状況調査事業」を受託し、ロボットの実用化追跡調査及びロボット関連分野の実態調査を行う。
同年、第一線で活躍する女性ファッションディレクター、コピーライター、作家との対談、ロボティック・ライフスタイル®ティーチン「男と女 de ロボット」を開催。
2013年「未来世紀ジパング～進化するロボット」(テレビ東京)にロボットジャーナリストとして出演。「日本一ロボットに詳しい男」として紹介される。
同年、無人機に関する日本で初めてのシンポジウム「ロボット関連技術の境界線～発展する無人機の可能性と国際動向～」を開催。
同年、神奈川県の「新産業ベンチャー起業化支援事業」プロジェクトにおいて、介護作業等における身体負担軽減(腰痛防止)を目的としたアシストロボットの開発支援。また、京浜コンビナート地区の大手プラント企業からの依頼で、プラント配管の固着物を点検・除去するロボットの開発支援を行う。
かわさき・神奈川県ロボットビジネス協議会 事務局長。ロボット保険サービス 代表。ロボット実証実験実行委員会 委員長(2011-2014)。介護・医療分野ロボット普及推進委員会 委員(2010～2012) など。

※1 ロボカーサ・ドットコム <http://www.robocasa.com/>
ロボカーサ・ドットコムにおけるロボットとは一般的なロボットのカタチ(ロボット単体)にとらわれることなく、人間の要求や環境に応じて動いたり、人間の行動を自動的に支援してくれる商品、及びロボットテクノロジーを使ったサービスやシステムのこと。

※2 ロボティック・ライフスタイル® Journal <http://robocasa.seesaa.net/>

日本ロボットビジネス体系講座 2014-2015

JAPAN ROBOT BUSINESS SYSTEM LECTURE 2014-2015

対象者：ロボットビジネスに興味がある人、ロボットビジネスをはじめたい人、ロボットビジネスに取り組んでいる人。そして、ロボットビジネスに関する様々な悩みや疑問を抱えているすべての人。

- ・ロボットビジネスをはじめたいけれど、どこから手をつければいいのかわからない
- ・今後ロボット市場は拡大すると考えているが、もうひとつ確信がもてない
- ・新規事業としてロボットを検討している
- ・ロボットビジネスに会社や上司の理解が得られず悩んでいる
- ・以前、ロボット開発を行ったが、今あらためてロボット事業に取り組もうとしている
- ・ロボット市場や他社の動向が気になる
- ・国内はもちろん海外の最新ロボットビジネスについて知りたい
- ・これまでも様々なセミナーに参加し、開発者の話などを聞いてきたが、どうも腑に落ちない
- ・開発自慢や技術的な話ではなく、ビジネスや事業に直結する信頼性のある情報を得たい
- ・ロボットの活用事例を探している
- ・ユーザー導入事例を知り、自分たちのサービスと協働したい
- ・受託開発を行っているが、自社開発のロボットを検討している
- ・既存製品へのロボット技術応用を考えている
- ・開発資金で悩んでいる
- ・開発はしたものの商品化の目途がたたず、投資を回収できていない
- ・ロボットを開発したいが人材がない
- ・ロボットの実用化に関連する法律や社会制度を知りたい
- ・安全に関するアドバイスを求めている
- ・安全性の確保をどうはかっていいかわからない
- ・万が一の場合の保険について知りたい
- ・保険会社に相談しても要領を得ない
- ・大学との共同研究を考えている
- ・共同開発、販路開拓パートナーを探している
- ・当社技術を必要とする企業をどのように探したら良いかわからない
- ・意見や情報を交換できる場を探している
- ・実証実験の進め方がわからない
- ・実証実験へのサポートを求めている
- ・実証実験の評価方法、検証方法、効果の測定方法について知りたい
- ・介護ロボットのことをニュースで見る機会が多くなったが、実際のところどうなのか知りたい
- ・介護ロボットを活用しているユーザーの声を聞いてみたい
- ・ロボットベンチャーやロボット製品を扱う企業を知りたい
- ・ロボット産業への投資（株など）に興味がある
- ・今後10年のロボットビジネスのヒントを得たい



FAX 047-493-2490

認定NPO法人ロボティック普及促進センター

日本ロボットビジネス体系講座 2014-2015 申し込み書 (FAX用)

■参加講座日 (受講を希望する日にをいれてください。)

2014年

10月25日(土) / 11月15日(土) / 12月13日(土)

2015年

1月17日(土) / 2月14日(土) / 3月7日(土)

■振込予定日

月	日
---	---

※参加日の3日前までにお振込ください。

氏名 (ふりがな)

年齢

男性・女性

(※女性と20代の方は料金が割引になります)

所属先

所在地

メールアドレス

電話番号

受講理由

※FAX 受信後、確認のメールを上記メールアドレスにお送りします。

※当日はこの用紙をお持ち下さい。